

2022年9月9日 第3400回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 前田 会長

<斉唱> 「我等の生業」 ソングリーダー 佐久間博一 会員

<ゲスト紹介> *ピンクリボンかながわ代表

・湘南記念病院乳がんセンター長 土井 卓子 様

*神奈川県予防医学協会 代表理事 根本 克幸 様

*神奈川県予防医学協会 参事

ピンクリボンかながわ事務局長 齋藤 好子 様

<会長報告> *国際ロータリー日本事務局より

・ロータリーレート変更のお知らせ 9月1日より1ドル139円 (現行133円)

*ガバナー事務所より

・青森県大雨災害への義援金協力依頼について

<委員長報告> *危機管理委員会 角井副委員長より 危機管理セミナー 報告

*インターアクト委員会 鈴木之一委員長より 年次大会のご案内

11月23日 (祝・水) 会場：三浦学苑

<出席報告> *出席委員会 田村副委員より 9月9日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
116名	106名	65名(6名)	41名	8名	68.87%

<ニコニコ報告>

・三 役 ピンクリボンかながわ代表・湘南記念病院乳がんセンター長 土井卓子様、ようこそお出で下さいました。本日の卓話楽しみにしております。

・比護、南、大石、松本 剛、梁井、勝間、福西、波島、澤田、高橋、植田、前川、八巻、小山 剛、田中、小佐野、小山 剛、上林、臼井、齋藤 剛 各会員

ピンクリボンかながわ代表・湘南記念病院乳がんセンター長 土井卓子様、神奈川県予防医学協会 代表理事 根本克幸様、神奈川県予防医学協会 参事・ピンクリボンかながわ事務局長 齋藤好子様、お忙しい中、横須賀RCにお越しいただき有難うございます。本日の卓話大変楽しみにしております。どうぞ宜しくお願いします。

・鈴木 剛、小山 剛、齋藤 剛 各会員 入会月祝いとして

・加藤 剛 4番テーブルマスター 先日の4番テーブルミーティングでは、前田会長ご指導の下、抗原検査に全員甲種合格して、スパークリングワインで乾杯、楽しいヒトトキを過ごせました。4役の皆さん、三宅さん、会場設定でお世話になった猿丸会員本当にありがとうございました。

・比護、田村、大石、長谷川、上林、猿丸 各会員 9月2日にメルキュールホテルにて4番テーブルミーティングが開催されました。前田会長、長尾副会長、瀬戸幹事、兼城SA A、三宅さんご参加ありがとうございました。猿丸会員美味しい料理とお酒、加藤元章テーブルマスターからはシャンパンの差し入れありがとうございました。

・椿、杉浦、長谷川、大野 剛、勝間、児玉、石田、濱田、木村、馬場、二瓶、徳永、波島、澤田、高橋、植田、前川、笠木、根岸、谷、齋藤 剛、田邊、齋藤 剛、角井 各会員

9月30日に「ピンクリボンよこすか2022」ライトアップセレモニーが行われます。横須賀市役所及びドリド横須賀がピンクリボンマークでライトアップされるとともに乳がん検診やチャリティーグッズ販売などの社会奉仕活動が実施されます。横須賀ロータリークラブの取り組みを地域の皆様に知っていただくためにも頑張りましょう！

ピンクリボンかながわ代表
湘南記念病院乳がんセンター長
土井卓子様

本日は貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございます。今回は9月30日のイベントと一緒にピンクリボン活動のライトアップが出来ることを非常に楽しみに致しております。「ピンクリボンと社会貢献」ということでピンクリボン運動のお話を致します。ピンクリボン運動は乳がんの「早期発見・早期診断・早期治療」の大切さを世界の女性たちに伝える運動であることはよくご存じだと思いますが、どういう始まりだったかご存じでしょうか？実は1980年代のアメリカで38歳の女性が乳がんで命を落とされ、そのお嬢さんがまだ7歳だったという事で、祖母にあたる方が、非常に悲しんで手遅れの乳がんになっては絶対いけない、早く見つけていれば全く問題なかったのに遅かったのでもう遅くなってしまったという事で、お孫さんに「あなたは命を落とさないでちょうだいね」とピンクリボンをキューッと結んだことが、ピンクリボンの始まりと聞いております。「乳がんで命を落とさないように」という女性たちへのメッセージと「同じ悲劇を繰り返したくない」という母の思いが込められています。日本と違い非常に乳がんが多かったアメリカではこれが全土に広がり、ヨーロッパに広がり、そして日本には2000年になって入ってきたと言われています。リボン活動ってなんだろうと考えますと実はアウェアネスリボン(Awareness Ribbon 輪状に折った短い一片のリボン、もしくはそれを描いたものなど着用者が社会運動、もしくは社会問題に対してさりげない支援の声明を出す方法)というのが元になっています。もちろんピンクリボンは乳がんの予防・啓発なのですが、ほかにもたくさんのリボンがありまして赤リボンはエイズへの理解・支援、オレンジは児童虐待防止、北朝鮮拉致被害者奪回、すい臓がん、受動喫煙防止、糖尿病というのがブルーリボン、シルバーは脳に起因するの疾患、紫は女性への暴力防止・DV根絶のアウェアネスと言われております。色によっていろいろな意味があり、今日、私も神奈川のリボンと私の病院のリボンを着けていますが、このリボンを着けていることによってその人が社会運動もしくはその社会問題に対してさりげない支援や賛同の声明を出す方法がこのリボンと言われているんです。たくさんのピンクリボンがありピンクリボンは世界共通なのでパテントはございません。バッチも自由に作っていただいて結構なので横須賀のロータリークラブ様にもロータリークラブなりのピンクリボンのロゴを作って頂いてバッチなどを着けて頂くのもよろしいかと思っております。



は命を落とさないでちょうだいね」とピンクリボンをキューッと結んだことが、ピンクリボンの始まりと聞いております。「乳がんで命を落とさないように」という女性たちへのメッセージと「同じ悲劇を繰り返したくない」という母の思いが込められています。日本と違い非常に乳がんが多かったアメリカではこれが全土に広がり、ヨーロッパに広がり、そして日本には2000年になって入ってきたと言われています。リボン活動ってなんだろうと考えますと実はアウェアネスリボン(Awareness Ribbon 輪状に折った短い一片のリボン、もしくはそれを描いたものなど着用者が社会運動、もしくは社会問題に対してさりげない支援の声明を出す方法) というのが元になっています。もちろんピンクリボンは乳がんの予防・啓発なのですが、ほかにもたくさんのリボンがありまして赤リボンはエイズへの理解・支援、オレンジは児童虐待防止、北朝鮮拉致被害者奪回、すい臓がん、受動喫煙防止、糖尿病というのがブルーリボン、シルバーは脳に起因するの疾患、紫は女性への暴力防止・DV根絶のアウェアネスと言われております。色によっていろいろな意味があり、今日、私も神奈川のリボンと私の病院のリボンを着けていますが、このリボンを着けていることによってその人が社会運動もしくはその社会問題に対してさりげない支援や賛同の声明を出す方法がこのリボンと言われているんです。たくさんのピンクリボンがありピンクリボンは世界共通なのでパテントはございません。バッチも自由に作っていただいて結構なので横須賀のロータリークラブ様にもロータリークラブなりのピンクリボンのロゴを作って頂いてバッチなどを着けて頂くのもよろしいかと思っております。

乳がん死亡率を下げることを目的とした活動がピンクリボン活動ですがバッチの着用やピンクリボンのライトアップ、講演会やイベント開催、グッズ作成などたくさんの事を行っています。横浜市水道局が「はまっ子どうし」という水をピンクリボンボトルにしてくれました。最初は1000本で終わりと言われましたが、非常によく売れたのでたくさん作って頂きました。何故これがいいのかというと全く乳がんに関心のない殿方が会議をしている時に、出された水を見てこんなにたくさんの人が乳がんにかかっているのかがラベルの後ろに書いてあり、命を助けられる方法があるのだとかをたまたまご覧になった方が奥様に「検診に行ってください」と言われたり、あるいは運動会で配って頂いたり、見た方が「ああそうなのか。」と理解を深めてくださったりしているようです。最後の700本は豪華クルーズ船に渡ったそうです。関心のない方に見て頂くためにピンクリボンは毎年いろんなブースをあちこちに出しまして自己触診のモデルを置いたり自己触診のやり方のパンフレットを配ったりして検診に来て下さいと呼びかけをしています。

なぜピンクリボンばかりと思いませんか？なぜ胃がんとか大腸がんとか肺がんではやらないの思われる方も多いと思うので、なぜピンクリボン活動をやるかというお話をします。日本の女性がどの様ながんに罹るかという表と、どのようながんで命を落とすかという1960年から2020年の年代ごとの表を出してみました。日本人が罹るがんと言えば胃がんだったのですがところがすごい右肩上がりに上がるのが乳がん。こんなに増えたがんは他にはないです。国立がんセンターのホームページに載っている最新のデータでは9万4519人が年間で罹っていると書いていますが4年遅れになりますので本当のデータは出ていませんが2020年以降は年間10万人を超えていることが分かっております。1年間に10万人もの人が罹るがんが乳がんなんです。日本女性が生涯で一回乳がんを経験する確立は10.8パーセント、9人に1人の女性は乳がんを経験するという時代で他人事でない訳です。1000人検診をすると必ず3人くらいに乳がんが見つかります。こんな高い確率でがんが見つかる検診は他の臓器で例をみません。たくさん発見すれば命が助かる。これは乳がんだけです。進行度別にいろんながんが5年生存率はどうなんだろうというのを試してみても乳がんはステージⅠ、ステージⅡですとほとんど乳がんを命をおとさないんですね。がんにかかることは止められないとすればステージⅠやⅡの間に見つけて治してしまいたい。ステージⅢやⅣで見つけるのでは無いぞというのが今のピンクリボン運動のメッセージです。乳がんが他のがんと違うのは若く罹ることです。昔は45歳でピークだったものが80歳を過ぎた高齢者の乳がんも増えてきている。高齢者の方は一生懸命治療しても伸びもソコソコですが20~40代の方はそこで治してあげればずっと生存できます。しかし若い人は治療すると妊孕性(にんようせい=妊娠するために必要な能力)が落ちてしまう。抗がん剤使うと子供が産めなくなってしまうたり、あるいはホルモン剤を長期で使うと出産できなくなったりという問題や見た目の問題でも苦しむということで、若い女性には大きな問題を抱える疾患であるということです。

海外では死亡率が日本より高かったのですが1990年代の後半からイギリスもスイスもカナダもアメリカも死亡率を下げています。日本だけ上がり続けていてこのままいったら日本の方が高くなるという事が分かっています。ではどうしたら避けられるのか、先進国と思っていたのに日本は下がらないのだろう、下げる方法はなんでしょう。海外でも何もしないと右肩上がりに上がって行きます。検診だけしっかりと横ばい、薬物療法がきっちりできると下向きになるということが科学的根拠でわかっています。ところが日本では薬物療法はガイドラインが制定されていても、専門でない先生が治療を担当しても結果に繋がらないことが、まだ日本では遅れているということです。

40歳になったら市でも検診を行ってくれます。40歳以上の方は1年おきに自動的に検診を受けることができます。普通は1万5千円ですが横須賀市では補助が出るので1600円で受けられます。

海外では79パーセントの受診率ですが、日本は昨年44.3%まで行きましたが、そこから上がる気配がありません。2000年からマンモグラフィー検診制度をつくったのですが最初は13%しか受診率がなかったもので、そこから考えるとすごい上昇ではありますが、死亡率が横ばいに行くには50%の受診率が最低必要です。それを超えていくと下向きになるので40%止まりでは下向きにいきません。それが今の足りないと言われるゆえんです。もっと受けて頂きたいよというのが思いです。

女性はご主人のお給料で検診に行ったら申し訳ないとか忙しいからというふうになってしまうので息子さんやご主人、あるいはお父様のお友達が、会社のお仲間がこう言ってください。「あなたが大事だから検診に行ってください」そう言って頂けると女性も検診に行きやすいです。それから検診対象の該当年齢だけでなく大学生、高校生、中学生、小学生にも伝えることが大切です。「大人になると乳房ってがんになりやすいんですよ。」「検診は大事なんですよ。」「大人になったら自己触診してね。」これがピンクリボン活動の基本になります。

「乳がんとどう向き合うか」乳がんは検診するとよく見つかる。だから検診の意義と重要性が高い。早期発見が出来れば根治出来る。抗がん剤がいない状況で終われる、あるいは全摘しないで終われるという風に苦痛が少なく、妊孕性を損なう事もなく終わるかもしれない。そして女性を救うということは家族が幸せになるということです。女性は育児や介護で自分を後回しにしがちなので誰かが是非勧めてください。乳がん検診の推奨は社会を救うことと私は考えています。



<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 杉浦 浩子